

令和 5 年 5 月 27 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00720

研究課題名（和文）東アジア史における「古代末期」の研究

研究課題名（英文）A Study on Late Antiquity in East Asia

研究代表者

佐川 英治（Sagawa, Eiji）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授

研究者番号：00343286

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、3～8世紀の東アジアが、漢帝国が崩壊したのち、古典の継承と変容のうえに多元的な中華世界が現れてくる時代であったことを明らかにすることにある。そのために、4、5世紀を転期とする中国社会の変容、3～8世紀における中国文化の伝播と中心の拡散、3～8世紀の中華の多様性と東アジアでの受容、3～8世紀における仏教の浸透と中華の変容、ヨーロッパの「古代末期」と東アジアの比較、の5つテーマに沿って研究をおこなった。その結果として、3～8世紀の東アジアが西欧の「古代末期」に相当する独特の性格を持った時代であることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル化や地球規模での持続可能な社会の実現という課題に直面する今日においては、国家の枠組みが相対化される現実が広がり、学問的にもグローバル・ヒストリーや人類史が一つの潮流となっている。そうしたなかで、東アジア史についてもあらためて世界史的な視野のなかで考えなおすことが必要になっており、本研究はそうした視野において3～8世紀の東アジア史に新たな歴史的な意義を与えるとともに、西洋の「古代末期」との比較することでこの時代の東アジア史を世界史上に位置づけなおそうとするものである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify that East Asia from the 3rd to 8th centuries was a period in which a pluralistic Chinese world emerged on the basis of the succession and transformation of the classics after the collapse of the Han Empire. To this end, research was conducted on the following five themes: (1) the transformation of Chinese society in the 4th and 5th centuries, (2) the spread of Chinese culture and the diffusion of the center of Chinese culture in the 3rd to 8th centuries, (3) the diversity of Chinese culture and its reception in East Asia in the 3rd to 8th centuries, (4) the penetration of Buddhism and the transformation of Chinese culture in the 3rd to 8th centuries, and (5) comparison of the "Late Antiquity" in Europe with that in East Asia. As a result, we found that East Asia from the 3rd to 8th centuries had a unique historical character that corresponded to the "Late Antiquity" of Europe.

研究分野：中国古代史

キーワード：中国史 東アジア史 古代末期

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1)平成 28 年度～平成 29 年度科研費(挑戦的萌芽研究)「7 世紀東アジア世界の文化的多様性とその淵源についての研究」(課題番号 16K13284)において、7 世紀東アジア世界の文化的多様性とその淵源を明らかにするための研究をおこなった。

(2)前項の研究をおこなっていくなかで、7 世紀にいたる歴史世界の展開を考えるうえでは東アジア世界という枠組みそのものに限界があることに気づくようになり、これ乗り越えるには、西洋史の分野においてすでに大きな潮流となっている古代末期(Late Antiquity)の議論を東アジア史に取り込んでいくことが有効と考えるようになった。

### 2. 研究の目的

(1)古代末期とは、ヨーロッパの 3～8 世紀の時代を従来のようにローマとは断絶したキリスト教文化の時代ととらえるのではなく、長いローマ文化の継承と変容の時代ととらえる見方である。その特徴は、従来の西ヨーロッパ中心主義を排し、3 世紀以降の地中海世界全体をローマ文化の上に展開した多元的な世界と捉えることにある。古代末期は、従来の時代区分論が国民国家の枠組みや進歩史観をあまりに強く過去に投影していることへの反省に立つものであり、本質的に国際関係論である東アジア世界論の課題を克服するうえでも重要な示唆を与える。

(2)研究代表者は「東アジア世界の形成期」とされるこの時代はまさに中国古典文明を基礎としつつ多元的な東アジア世界が切り拓かれていく時代であったと考える。そこで本研究では多分野の国際的な研究者とともに、東アジア史における古代末期の有効性を検証し、新たな歴史像を打ち立てることを目指した。

(3)約 400 年続いた漢帝国のなかで完成した中国古典文明は、外から入ってきた文明との接触や「周縁」の文化との融合によって多様化し、それ自身が変容を遂げるだけでなく、中心が拡散して多元化する。こうした中国古典文明の変容と多元化によって東アジア世界が形成されてきたことを明らかにする。

### 3. 研究の方法

(1)約 400 年続いた漢帝国のなかで完成した中国古典文明は、外から入ってきた文明との接触や「周縁」の文化との融合によって多様化し、それ自身が変容を遂げるだけでなく、中心が拡散して多元化する。こうした中国古典文明の変容と多元化によって東アジア世界が形成されてくることを明らかにするために、本研究では以下の 4 つのテーマを立てて検証した。

(2) 4,5 世紀における中国・東アジアの建国運動  
五胡諸国の中華意識が古代の朝鮮や日本の国家形成に影響を及ぼしているという指摘はすでにある。多元的な東アジア世界の独自の画期としてこのことを検証した。

(3) 都城の拡散や仏教の受容による中華文明の相対化  
魏晋以降、成都や建康(南京)、平城(大同)といった漢代においては「周縁」に位置した地域に都城が作られるようになり、天下の中心が東アジアに拡散していく。また仏教との出会いは中国を唯一の文明とする考え方を大きく揺るがした。こうした都城の拡散や仏教の受容が多元的な東アジア世界の形成に果たした影響について検証した。

(4) 内外臣構造の溶解と華夷観の変化  
諸民族の中国への内遷は地理的に区分された漢代の内臣・外臣構造を溶解させた。その結果、華夷の関係も単純な文明と野蛮の関係ではとらえきれなくなり、華北では「漢」や「漢人」を侮蔑の言葉として用いる現象も現れた。こうした華夷観の変化が東アジア世界の成立にもたらした影響について検証した。

(5) 多様性の統合と皇帝像の変容  
以上のような社会の多様化、多元化にともなって中国の統合の象徴である皇帝のあり方も変化せざるをえなかった。4 世紀まで中華文明の一元的な存在であった皇帝は、5 世紀以降、道教・

仏教的な聖性を帯び、あるいは遊牧世界の君主としての可汗を称するなど、多面的な性格を帯びていく。こうした皇帝像の変容と多面的な世界との関係を検証した。

#### 4. 研究成果

(1)5年間の研究のまとめとして、研究代表者は自身と研究分担者・研究協力者・海外研究協力者12名の研究成果をとりまとめて佐川英治編『多元的中華世界の形成 東アジアの「古代末期」』（臨川書店、2023年2月刊行）を出版し、以下の研究成果を示すことによって3~8世紀を東アジアの「古代末期」とする時代像を描き出した。

(2)漢代の記憶が魏晉以降にどのように継承されていったかを王朝の正統性、反乱者、職官制度、漢代十三州システム、爵制の継承といった事柄に焦点を当てながら追跡し、漢帝国崩壊後の中央官制や地方行政、爵制などの制度に対する漢朝遺制の影響力を明らかにした。

(3)1980年に内モンゴル自治区フルンボル市オロチョン自治旗で発見された嘎仙洞碑文と『魏書』に改竄して収録された祝文との比較を通じて、北魏王権の実像に迫り、北魏が中国と遊牧世界と宗教世界の権威を複合的に取り込んだ、かつてない多面的な性格の王朝であったことを明らかにした。

(4)南朝において『周礼』がどのように導入されていったかを検討し、その画期は北魏の洛陽遷都の翌年に、傍系から即位した南齊の明帝が何佟之を用いて『周礼』にもとづく凶礼を整備したことにあることを明らかにした。

(5)南朝の後半期に一種の百科全書である類書の編纂がさかんにおこなわれたことについて論じ、その背景に魏晉期に家門を起こした二流の寒門士族たちの家に蓄積された知識の価値を漢の古典と同じように高めて古典化しようとするねらいがあったことを明らかにした。

(6)梁にのみみえる特殊な將軍号の制度と運用を分析し、北魏との差別化を図る意図とともに、一元的な天下観から脱けて外国は外国として処遇していこうとする新しい国際意識の萌芽をみることができることを明らかにした。

(7)梁の政治に軍事がもたらした影響について論じ、北魏との戦争が大きな影響を与えており、梁の国内政治にみえるものも実は北魏の影響を深く受けていたことを明らかにした。

(8)建康における仏教ならびに仏寺の発展についての歴史をたどり、そこに移民との深いかわりをもとに、寺院が都市に流れ込んだ人々のための新しい公共空間としての性格を持ったことを明らかにした。

(9)唐の大雲寺や開元寺など皇帝の勅命によって国内各州府に設置された官立寺院の淵源に漢代の郡国廟や戦没者を祭って戦地に築かれた祭堂など中国の伝統的な祭祀施設があることを明らかにした。

(10)6世紀にソウル近郊の北漢山頂に立てられた真興王巡狩碑などを手がかりに、新羅王権の多元的な性格を明らかにした。

(11)6世紀から8世紀はじめにかけての時期に、倭国は自ら中国の周辺としたままその外部集団を中央(中国)の周辺として位置づける段階から、自身が中央化してその外部集団を自己(倭国)の周辺に位置づける段階へと展開を遂げたことを明らかにした。

(12)則天武後の仏教利用が広くこの時代の東部ユーラシアの王権の趨勢と結びついた動きであったことを明らかにした。

(13)欧米における「古代末期」論の背景と今日その議論の最先端が東アジアの歴史にも及びつつあることを示した。

(14)海外研究協力者や研究分担者とともに、「東アジアの古代末期」をテーマに掲げた初めての国際シンポジウム“Beliefs and Cultural Flows of East Asia in the Late Antiquity and Medieval Period”(College de France)の開催に協力し、研究発表をおこなった。

(15)2020年に海外研究協力者3名を講演者に迎え、魏晉南北朝史研究会の共催による「魏晉南北朝国際学術講演会」を東京大学で開催した。また国内の研究分担者・協力者とともに、東方学会2021年度秋季学術大会においてシンポジウム「中華の多元化 東アジアの「古代末期」」

を開催し、成功させた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐川英治	4. 巻 96
2. 論文標題 カツ仙洞刻石祝文にみる北魏王権の多元性 天子・皇帝・可汗・太平真君の称号をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋史苑	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河上麻由子	4. 巻 56
2. 論文標題 『阿育王経』が梁武帝の崇仏に与えた影響について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『待兼山論叢』	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐川英治	4. 巻 885
2. 論文標題 書評：氣賀澤保規編著『隋唐洛陽と東アジア 洛陽学の新天地』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐川英治	4. 巻 14
2. 論文標題 中国古代都城の客館とそこに現れた天下観	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都城制研究	6. 最初と最後の頁 27-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐川英治	4. 巻 36
2. 論文標題 書評：魏斌著『“山中”的六朝史』生活・読書・新知三聯書店	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国 社会と文化	6. 最初と最後の頁 180-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河上麻由子	4. 巻 24
2. 論文標題 「東アジアの轉輸聖王」(韓国語)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『木簡と文字研究』	6. 最初と最後の頁 111-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐川英治	4. 巻 24
2. 論文標題 北魏道武帝的“解散部落”与高車部族的羈縻政策	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 唐研究	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮秀陵	4. 巻 22
2. 論文標題 新刊紹介 古畑徹著『渤海国とは何か』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 唐代史研究	6. 最初と最後の頁 217-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐川英治	4. 巻 21
2. 論文標題 唐長安城の朱雀大街と日本平城京の朱雀大路 都城の中軸道路に見る日唐政治文化の差異	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 唐代史研究	6. 最初と最後の頁 21-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐川英治	4. 巻 18
2. 論文標題 都城制の画期をめぐる歴史学と考古学 曹魏のギョウ城と洛陽城の復元を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国考古学	6. 最初と最後の頁 31-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計37件 (うち招待講演 25件 / うち国際学会 22件)

1. 発表者名 佐川英治
2. 発表標題 中日古代都城制の中軸線機能 (中国語)
3. 学会等名 第3届中国文化研究国際論壇 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐川英治
2. 発表標題 カツ仙洞刻石祝文にみる北魏王権の多元性 天子・皇帝・可汗・太平真君の称号をめぐって
3. 学会等名 2022年度龍谷大学東洋史学研究会総会記念講演 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐川英治
2. 発表標題 漢末碑文習慣与禁碑令（中国語）
3. 学会等名 碑之転身 中古中国石碑与石刻文化學術検討会 （招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐川英治
2. 発表標題 皇帝が天子を称するとき 中国の多元化と東部ユーラシア世界
3. 学会等名 2022年度史学会シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐川英治
2. 発表標題 中国史の時空間 内藤湖南から東部ユーラシア史まで
3. 学会等名 学習院大学東洋文化研究所設立第70周年記念シンポジウム「世界に展開する東洋学 海外と日本の中国史研究」基調講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐川英治
2. 発表標題 東アジア都城の系譜 『周礼』考工記から藤原・平城京まで
3. 学会等名 都市の世界史（招待講演）
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 佐川英治
2. 発表標題 東アジア都城の系譜 『周礼』から平城京まで
3. 学会等名 インフラからみた東アジア都市の発展（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 則天武后と多元性
3. 学会等名 東方学会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐川英治
2. 発表標題 北魏洛陽城在東亜都城史上的地位
3. 学会等名 歴史学和考古学交錯的中古都城（上海師範大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sagawa Eiji
2. 発表標題 A Pluralistic World in the Wake of the Han Empire
3. 学会等名 “Beliefs and Cultural Flows of East Asia in the Late Antiquity and Medieval Period” (College of France, Paris) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Obi takao
2. 発表標題 The Buddhist Acceptance and Temple Space of Jiankang in the Six Dynasties: The Prosperity of Jiankang in the Xiaoliang Period and its Historical Background
3. 学会等名 “ Beliefs and Cultural Flows of East Asia in the Late Antiquity and Medieval Period ” Forum (College of France, Paris) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河上麻由子
2. 発表標題 南北朝時代の王権と仏教 アジア史からみた
3. 学会等名 第19回魏晋南北朝史研究会 (東京大学) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kawakami Mayuko
2. 発表標題 Disintegrating Empire, Reconstituting Culture
3. 学会等名 “ Beliefs and Cultural Flows of East Asia in the Late Antiquity and Medieval Period ” (College of France, Paris) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KOMIYA Hidetaka
2. 発表標題 Historical significance of building stone monuments in sixth-century Silla
3. 学会等名 “Beliefs and Cultural Flows of East Asia in the Late Antiquity and Medieval Period ” Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐川英治
2. 発表標題 北魏道武帝の“部族解散”与高車部族の羈縻政策
3. 学会等名 「族群凝聚与国家秩序」(ミニワークショップ)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐川英治
2. 発表標題 漢帝国以後の多元社会
3. 学会等名 第六回「漢化・胡化・洋化」国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐川英治
2. 発表標題 北魏六鎮与凉州人士
3. 学会等名 「凉州文化与系綫之路」国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐川英治
2. 発表標題 北朝墓誌与六鎮研究
3. 学会等名 「出土文献与漢唐間地方社会」シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐川英治
2. 発表標題 中国古代都城の設計とそこに現れた天下觀
3. 学会等名 第13回都城制研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 佐川英治（編著）小尾孝夫・河上麻由子・小宮秀陵（分担執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 多元的中華世界の形成 東アジアの「古代末期」	

1. 著者名 佐川英治・河上麻由子（分担執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 728
3. 書名 アジア人物史 第2巻 世界宗教圏の誕生と割拠する東アジア	

1. 著者名 佐川英治（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 312
3. 書名 岩波講座世界歴史 第6巻 中華世界の再編とユーラシア東部 4～8世紀	

1. 著者名 佐川英治 (分担執筆)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 臺灣商務印書館	5. 総ページ数 304
3. 書名 崩解の古代帝国秩序 378年	

1. 著者名 佐川英治 (編著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 放送大学出版会	5. 総ページ数 300
3. 書名 中国と東部ユーラシアの歴史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	小宮 秀陵  (Komiya Hidetaka)  (30802011)	獨協大学・国際教養学部・准教授   (32406)	
研究 分担者	河上 麻由子  (Kawakami Mayuko)  (50647873)	大阪大学・文学研究科・准教授   (14401)	
研究 分担者	小尾 孝夫  (Obi Takao)  (90526675)	大東文化大学・文学部・准教授   (32636)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 魏晋南北朝史学術講演会	開催年 2019年～2019年
-----------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------